

2011年3月27日 ポルトガル  
シトロエン・レーシング発

### 世界ラリー選手権(WRC)ポルトガル

～シトロエン DS3WRC がワンツー・フィニッシュで圧勝～

1年前、国際自動車連盟(FIA)の世界ラリー選手権(WRC)初優勝を遂げたセバスチャン・オジェ／ジュリアン・イングラシア組が、同じラリー・ポルトガルで2連勝を飾りました。完璧なレースを走り、最初にアルガルヴェに戻ってきたのです。セバスチャン・ローブ／ダニエル・エレナ組は2位となり、新しく投入されたDS3 WRCは初めてのワンツー・フィニッシュを成し遂げました。ローブ／エレナ組はミッコ・ヒルボネンと激しいドライバーズタイトル争いを繰り広げています。



ラリー・ポルトガルの最終日となったデイ3、シトロエン・トタル・ワールドラリーチームは、3位に4分以上の差をつけて1、2位でスタート。レース最終日の主導権をしっかりと握りました。全長31.04kmからなるサンタナ・デ・セラ1(SS15)では、2度目にパワーステージとして走る際に備えてペースノートを確認なものにすることに集中しました。次のSSでは最終ステージに向けてマシンとタイヤの調整に専念する走りをしました。

最終日の狙いは、シトロエンDS3WRCのワンツー・フィニッシュを確実に決めることに加え、最終のパワーステージでボーナスポイントを獲得することにあります。パワーステージは少しウエットなコンディションでスタート、しかし車が走るにつれ路面はドライになってきました。2つのSSでは、ペター・ソルベルグにトップをとられましたが、最終SSで最速タイムを叩き出したのはセバスチャン・ローブでした。ラトバラが2位、セバスチャン・オジェは3位で、世界王者に7度輝いたローブを倒すことはできませんでした。

アルガルヴェ・スタジアムに戻ってきたシトロエン・タル・ワールドラリーチームは、今回のシトロエンの圧勝とチームメイトのローブから3度目の勝利を奪ったオジエの優勝に沸きました。

チームから歓喜で迎えられたオジエは喜びを語りました。「完璧な週末だった。初日をうまくコントロールし、ここぞというときにプッシュした。勝利から半年遠ざかって、ちょっとイライラはじめていたから、今回のワンツー・フィニッシュ、そしてパワーステージでのポイント加算はチームにとって大きいね。これで気分一新だ。ラリー・メキシコではがっかりしたけど、今回ポイントをしっかりゲットしたことで、年間チャンピオンへ向けて再スタートだね。全力でサポートしてくれたチームに感謝したい。この優勝をチームで喜べるのが何よりうれしいよ」



セバスチャン・ローブは2位フィニッシュ、最終ステージでの追加ポイントもあって20ポイントを獲得しました。これでドライバーズタイトル争いでミッコ・ヒルボネンと並びました。「僕たちの優勝の望みは、昨日消えてしまった。ミッコのマシンが巻き上げるダストのおかげで30秒ロスしたからね。だから2位を狙うしかなかった。パワーステージは厳しい戦いになると思っていたけど、ボーナスの3点を取れてよかった。僕たちにとってもチーム全体にとっても大きい結果だ。タイトル争いは熾烈になりそうだから、3点はとても貴重な」

今回のラリーに同行したシトロエンのゼネラル・マネージャー、フレデリック・バンゼもチームを讃えました。「1年前、WRC初優勝を遂げて天にも昇らんばかりの喜びを爆発させていた若きドライバー、セバスチャン・オジエは、今年新たな次元へと進化しています。今回の圧勝が何よりの証拠です。今回はコンディションの悪さに泣いたローブも健闘し、シトロエン DS3 WRC は初のワンツー・フィニッシュを決めることができました。これはチーム全員の勝利であり、シトロエンを応援して下さる皆さんに胸をはってご報告できる結果です。ワンツー・フィニッシュをこれからもどんどんお見せできるよう、頑張っていきます！」

.....  
プジョー・シトロエン・ジャポンでは、2011年もシーズンを通してWRCのリザルトをタイムリーに配信、新しく投入されたDS3 WRCの活躍をお伝えしていくことによってシトロエン車の高いパフォーマンスを広くアピールして参ります。

